15　　好き者のはやとちり 　文法　助動詞⑦　連用形接続の助動詞

今は昔、といふ者ありけり。歌を詠み、源氏・などをうかべ、花の下、月の前と①好きありきけり。かかる好き者なれば、左大臣、「大内の花見んずるに、必ず」とはれければ、通清、「㋐めでたき事にあひⓐたり」と思ひて、やがてに乗りてゆくほどに、あとより車二三ばかりして人のれば、「疑ひなきこの左大臣のおはする」と思ひて、のをかきあげて、「㋑あなうたて、あなうたて。とくとくおはせ」と、扇を開きて招きけり。はやう関白殿のものへおはしますなりけり。招くを見て、御供の随身、馬を走らせてかけ寄せて、②車の後の簾を刈り落としてけり。その時、通清慌て騒ぎて、前よりび落ちけるほどに、烏帽子ⓑ落ちにけり。いといと不便なりけりとか。好きⓒぬる者は少し③をこにもありけるにや。

語注

土佐判官代通清＝源通清。

後徳大寺左大臣＝藤原。

関白殿＝藤原。関白は、天皇を補佐して政務を執り行う重職。

随身＝貴人の身辺に付き従う人。

基本古語

不便なり（形動ナリ）＝不都合なさま。具合の悪いさま。

【原文】

今は昔、といふ者ありけり。歌を詠み、源氏・などをうかべ、花の下、月の前と好きありきけり。かかる好き者なれば、左大臣、「大内の花見んずるに、必ず」とはれければ、通清、「めでたき事にあひたり」と思ひて、やがてに乗りてゆくほどに、あとより車二三ばかりして人のれば、「疑ひなきこの左大臣のおはする」と思ひて、のをかきあげて、「あなうたて、あなうたて。とくとくおはせ」と、扇を開きて招きけり。はやう関白殿のものへおはしますなりけり。招くを見て、御供の随身、馬を走らせてかけ寄せて、車の後の簾を刈り落としてけり。その時、通清慌て騒ぎて、前よりび落ちけるほどに、烏帽子落ちにけり。いといと不便なりけりとか。好きぬる者は少しをこにもありけるにや。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

通清という〔　　　　　〕がいた。ある時左大臣に〔　　　〕を見ようと誘われたが、道中、〔　　　　　〕を〔　　　　　〕と間違えたため、〔　　　　　〕の随身に車の〔　　　〕を刈り落とされ、醜態をさらした。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ。（㋐は終止形でよい。）〈3点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ〜ⓒについて、

⑴　ⓐ・ⓒを、文法的に説明せよ。〈2点×2〉

ⓐ〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

ⓒ〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

⑵　ⓑを品詞分解し、それぞれ文法的に説明せよ。〈6点〉

落　　　ち　　　に　　　け　　　り

問四　チェック問題　助動詞⑦　連用形接続の助動詞

傍線部の助動詞の文法的意味に留意して、現代語訳を完成させよ。〈2点×3〉

1　さるべき契りこそおはしましけめ。（源氏物語）

　　そうなるはずの縁で〔　　　　　〕。

2　みなとりどりにこそありしかども、（平家物語）

　　皆それぞれに〔　　　　　〕けれども、

3　父のおはしまさん所へぞ参りたき。（平家物語）

　　父がいらっしゃるところへ参り〔　　　　　〕。

１〔　　　　　　　〕　２〔　　　　　　　〕

３〔　　　　　　　〕

問五　傍線部①の解釈として最も適当なものを選べ。〈4点〉

ア　自分が楽しいと思うことだけをしていた。

イ　暇にまかせてあちこち歩きまわっていた。

ウ　風流なことばかりして過ごしていた。

エ　女性と語らい合うことを楽しんでいた。

〔　　　〕

問六　傍線部②について、

⑴ 「刈り落としてけり」を現代語訳せよ。〈4点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

⑵ 「御供の随身」が「車の後の簾を刈り落とし」たのはなぜか。次の文の空欄に入る語句を、1は本文中から抜き出して、2は十五字以内の言葉で答えよ。〈1=4点、2=7点〉

通清が牛車の主を勘違いして、〔　１　〕で手招いたために、〔　２　〕から。

１〔　　　　　〕　２〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七　傍線部③「をこに」の説明として最も適当なものを選べ。〈9点〉

ア　高官である左大臣から花見に誘われたのに、壊れた牛車で出かけてしまう無頓着なところ。

イ　左大臣からの誘いを名誉に思うあまり、舞い上がって失敗を招くという思慮に欠けた性格。

ウ　いくら無礼を働いたからといって、牛車から落として烏帽子を脱がすという非道な仕打ち。

エ　不慮の事態が起こったときに、たちまち取り乱して失態をさらしてしまう情けない心構え。

〔　　　〕

【解答】

問一　好き者　花　関白殿　左大臣　関白殿　簾

問二　㋐＝すばらしい　㋑＝ああひどい〈3点×2〉

問三　⑴　ⓐ＝完了の助動詞「たり」終止形〈2点×2〉

ⓒ＝完了の助動詞「ぬ」連体形

⑵　落ち（タ行上二段活用動詞「落つ」連用形）／に（完了の助動詞「ぬ」連用形）／けり（過去の助動詞「けり」終止形）〈6点〉

問四　1＝いらっしゃったのだろう〈2点×3〉

2＝あった

3＝たい

問五　ウ〈4点〉

問六　⑴　刈り落としてしまった。〈4点〉

⑵　1＝扇〈4点〉

　　　　2＝身分をわきまえず無礼だと怒った（15字）〈7点〉

問七　イ〈9点〉

【現代語訳】

今となっては昔のことだが、土佐の判官代通清という者がいた。歌を詠み、源氏物語や狭衣物語などを暗唱し、花の下、月の前へと（花や月を眺めに出かけて）風流なことばかりして過ごしていた。このような風流人であるので、後徳大寺左大臣が、「内裏の花を見るつもりだから、必ず（来なさい）」とお誘いになったので、通清は、「すばらしいことに遭遇した」と思って、すぐに傷んだところのある牛車に乗って行っていると、後から車を二三台ほどで人が来るので、「まことのこの左大臣がいらっしゃる」と思って、後ろの簾をかきあげて、「（誘っておいて私より遅れるとは）ああひどい、ああひどい。早く早くいらっしゃれ」と、扇を開いて（その扇で）手招きをした。なんとまあ（関白殿が）あるところへお出かけになるようであったよ。（通清が）手招きするのを見て、（関白殿の）御供の随身は、馬を走らせて駆け寄せて、車の後ろの簾を刈り落としてしまった。その時、通清は慌て騒いで、（牛車の）前から転げ落ちたので、（通清の）烏帽子が落ちてしまった。たいそう都合の悪いことであったことよとか（いうことだ）。風流であった者は少し愚かでもあったのだろうか。

【補充問題】

問１　「烏帽子」（７～８行目）の読みと、どのようなものかを答えよ。

問２　「いといと不便なりけり」（８行目）とあるが、具体的には通清のどのようなことを指しているのか。適当なものを二つ選べ。

ア　古びた牛車で出かけたこと。

イ　牛車の速さを競おうとしたこと。

ウ　御供の随身に気づかなかったこと。

エ　牛車の簾を刈り落とされたこと。

オ　牛車の前から転げ落ちたこと。

カ　烏帽子が脱げてしまったこと。

【補充問題解答】

問１　えぼし。成人男子の、日常のかぶりもの。

問２　オ・カ